

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和2年度学校評価 結果・学校関係者評価

達成度(評価)

- A: 十分達成できている
- B: おおむね達成できている
- C: やや不十分である
- D: 不十分である

学校名	佐賀市立兵庫小学校
-----	-----------

1 前年度 評価結果の概要	・昨年度は大きく4つの領域で11個の評価項目を設定し、全職員で年間を通して取組を行った。各部の部長や各担当を中心に、具体的目標及び方策を設定し随時話し合いをもち、取組状況等を確認・見直しを行いながら、PDCAサイクルのもと継続的に実践を積んできた。その結果8項目がA評価で概ね達成できた。保護者の「兵庫小学校をよりよくなるためのアンケート」からも、ほとんどの項目で90%以上の肯定的な回答が得られ、教育活動に対して高い評価を得ていると考える。また学校評議員会において学校の現状や取組について説明をしたところ、「どの項目にも真剣に取り組んでおられ、しっかり頑張ってもらえてありがたく思っている。」「全てA評価でいいと思いますよ。」など、各委員から肯定的な意見をたくさん頂くことができた。全職員が共通理解・共通実践のもと組織として取り組んできた成果だと考える。
------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

2 学校教育目標	～ ひとりで みんなで 笑顔で ～
----------	-------------------

3 本年度の重点目標	①思いやりの心と規範意識の向上 ②確かな学力の定着 ③ふるさとを愛する子どもの育成
------------	-------------------------------------------------

4 重点取組内容・成果指標	中間評価	5 最終評価
---------------	------	--------

(1)共通評価項目				中間評価		最終評価		主な担当者		
評価項目	重点取組	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果			
				評価	意見や提言					
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師80%以上	・教職員間でマイプランを共有するとともに、校内研修等により取組の促進を図る。	B	・「継続と徹底」等の資料を元に、共通理解をする研修を実施し、マイプランの1回目の振り返りをして、取組の修正をした。	A	・学習状況調査の分析や日常の学習評価結果を生かしながらマイプランを考えて取り組み、成果指標を達成した教師が、80%に達した。	A	・国語科を中心に学力向上に向けての計画的な取組がなされているし、個々の教師が目標をもって頑張っている、これからも努力をして教師の質を向上してもらいたい。	・学習部
	○家庭学習の充実	○学年に応じた家庭学習時間を達成した児童80%以上	・家庭学習の手引き及び学習のルールを配布し、学校と家庭の両方で活用する。 ・年4回の「家庭学習がんばろう週間」を設け、家庭学習の習慣化を図る。	C	・4月に家庭学習の手引きを児童に配布し、手引きに沿って家庭学習を行うように指導を行った。 ・「家庭学習がんばろう週間」を2回実施。学年に応じた学習時間を達成した児童は平均74.6%に留まった。家庭学習ががんばろう週間中の担任の指導等、取組の修正をした。	B	・家庭学習の手引きを全児童に配布し、手引きに沿って家庭学習を行うよう指導を行った。 ・「家庭学習がんばろう週間」を3回実施。3回目の取組では、目標達成した児童が平均82.3%となった。4回目は2月に実施予定。 ・児童が家庭学習に取り組みやすいように、学習課題を明確にするなどの指導を行った。	A	・確かな学力の定着のためには、家庭環境を整えることは、とても大切なことである。兵庫小では、年間4回の「家庭学習がんばろう週間」を実施されるなどの取組がされており、非常にありがたく思っている。今後も継続して取り組んで欲しい。	・学習部
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○道徳に関するアンケートにおいて肯定的な回答をした児童90%以上 ・「ほかほか言葉」を使う ・友達には「さん」をつける	・人権教室や兵庫小児童をよりよく育てるためのアンケートを実施する。 ・ふれあい道徳として、参観日に道徳の授業を公開する。	B	・人権教室は、年間計画を立て、価値項目が重ならないように実施している。 ・ふれあい道徳は、コロナウイルス対策のため、参観日が少なくなったので、実施できている学年と出ていない学年がある。	B	・人権教室は、価値項目が重ならないように学期に1回実施し、倫理観、他者への思いやり、自己肯定感を育むことができた。 ・「ほかほか言葉」を使う児童や友達に「さん」をつける児童が、90%に達しなかったため、今後は言葉遣いへの意識が高まる取り組みを重点的に行う必要がある。 ・ふれあい道徳は、コロナウイルス対策のため、参観日が年間1時間しかなく、実施できた学年と出来なかった学年があった。	B	・友達呼び方に関しては、なかなか難しい問題だが、「さん」にこだわらず、親しい友達には「くん」「ちゃん」「ニックネーム」もあるので捉え方によって違ってくると思う。 ・子ども達は、担任を信頼しているため、道徳教育を基礎とした学級経営を行っていただきたい。 ・地域の住民も進んで挨拶等、声掛けをしていきたい。	・ふれあい部
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○いじめ等問題行動が起きたとき組織的対応ができていると回答した教師90%以上	・毎月児童及び保護者へのアンケートを実施する。 ・始業式の日に「レインボー作戦」の指導を全校で行い、その後各学級で指導を行う。 ・教育相談週間を設け、子どもの心の様子を把握する。	A	・毎月のアンケートを計画通り実施し、現状を把握している。(11月まで) ・1学期、2学期の始業式で「レインボー作戦」を行い、その後も各クラスで指導を継続している。 ・教育相談週間を設け、全児童からの聞き取りを行った。心の様子を把握し、日々の教育活動に生かしている。	A	・児童及び保護者への生活アンケートを毎月実施した。児童の実態や保護者の意識を把握したことで、いじめの基となるトラブルなどを早期に発見し、対応することができた。 ・学期始めの全校指導「レインボー作戦」を受けて、各学級での指導に生かすことができた。 ・教育相談週間を各クラスで実施し、一人一人とじっくり話すことで、トラブルを早期発見でき、解決できた。 ・いじめ等問題行動が起きたとき組織的対応ができていると回答した教師は97%だった。	A	・いじめの捉え方は難しい課題だが、月1回のアンケート調査を行っていただいているので、いじめの早期発見・早期対応につながっていると思う。また教育相談週間も実施されており、子ども一人一人に寄り添って対応していただき、ありがたい。今後も粘り強く取り組んで欲しい。	・ふれあい部
	○特別支援教育	○学級に配慮が必要な児童が在籍する場合「個別的教育支援計画」「個別の指導計画」を作成した教師100%	・教育支援会議を適宜開いたり、校内研修で児童の支援方法についての共通理解を深めたりして、具体的な支援に生かす。 ・巡回相談員や外部専門家等を積極的に活用する。	・配慮が必要な児童を全職員で把握し、対応している。今後も情報を共有しながら、個別の支援を行っていき、更なる充実を図る。	B	・配慮が必要な児童を全職員で把握し、対応している。今後も情報を共有しながら、個別の支援を行っていき、更なる充実を図る。	A	・配慮が必要な児童の「個別の指導計画」を作成し、支援に生かすことができた。 ・巡回相談員や専門家等の派遣を2回利用した。今後も職員への紹介を進めていく。 ・校内支援委員会やケース会議を適宜開き、支援方法の共通理解を深めることができた。	A	・配慮が必要な児童に対して、支援計画や指導計画をしっかりと立てて対応されていることが分かった。どの子どもも安全・安心な学校生活を送れるよう、継続した取組をお願いしたい。
●健康・体づくり	●運動習慣の改善や定着化	●授業以外で運動やスポーツを行う時間が1週間で420分以上の児童60%以上	・学級や各委員会の計画により、外遊びの機会を多く設けるようにする。 ・生活重点月目標を設定し、集会の講話や掲示資料を活用した指導を行う。	B	・全校で71%の児童が1週間で420分以上授業以外で運動やスポーツを行っている。低学年に比べ高学年が目標達成した割合が低い傾向があった。今後も高学年の児童が外で遊ぶよう呼びかけたり外遊びの機会を作ったりする。	A	・2回目の調査では、全体で74%の児童が1週間で420分以上運動やスポーツを行っているという結果になった。全体で1回目より達成率が3ポイント上がり、高学年の児童も前回よりも、外で遊ぶ習慣が付いたようである。しかし、まだ低学年に比べると達成した割合が低いので、継続して声掛けや外遊びの習慣を付ける手立てを考えていく。	A	・昼休みなど運動場でたくさんの児童が遊んでいる様子をよく見かける。登下校も歩いている児童も多く、これからも頑張ってもらいたい。広い運動場があるので、もっと外に出て思いっきり遊び、体を鍛えて欲しい。	・活動部
	●望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成	●「健康に食事は大切である」と考える児童90%以上	・「給食便り」で食に関する内容を提供する。 ・年2回の「早寝・早起き・朝ご飯実践カード」を実施し、朝食の必要性を喚起する。	B	・6月の「早寝・早起き・朝ご飯」実践カードの結果は「朝ご飯を食べた」が92%と高く全体的にきちんと食べている。早寝・早起きに関しては高学年があまりできていない。起床後時間の乱れが朝食抜きに繋がっているのでその点も踏まえて指導を続ける。	B	・11月の調査結果も「朝ごはんを食べた」が92%と高い水準を保っていた。どの学年も良く食べているが、高学年にほとんど食べない児童が数名いるので家庭との連携が必要である。なお、今年度は「健康に食事は大切である」という調査が行われなかったためその点は検証できなかった。	A	・望ましい食習慣の定着のためには、学校と家庭との連携が欠かせない。しっかりと食事が大事になってくるので、これからもいろいろな機会を捉えて、保護者や地域に発信して欲しい。	・活動部
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在職等時間の上限を遵守する。	・タイムマネジメントを行うと共に、毎週金曜日を定時退勤日と設定する。 ・掲示板機能を活用し、連絡会の内容を効果的に伝達する。	B	・毎週金曜日の定時退勤を実践している職員は、約半数にとどまっているので、健康管理委員会等の機会を捉えて、タイムマネジメントと合わせて啓発を強化していく。 ・掲示板機能を活用し、連絡会の内容を効果的に伝達することは、全職員の共通理解、共通実践ができている。	B	・業務記録簿の時間外勤務の時間の推移一覧表を作成し、健康管理委員会や回覧で示すことにより、定時退勤日等の意識の継続を図ったことで、目標をもって業務をする職員が増えた。 ・掲示板機能を活用し、職員への連絡事項を迅速に、効果的に伝達することで、業務の効率化を図った。	B	・学校には様々な問題があり、担任が抱え込んで苦慮されていることも多いのではないだろうか。専門家の配置や警察・弁護士との活用等、問題解決の体制づくりに取り組んでいき、業務改善に努めていただきたい。	・主幹教諭
(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目				中間評価		最終評価		主な担当者		
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果			
◎志を高める教育	◎自らの夢や目標の実現に向けて努力する気持ちを高める教育活動の推進	○「将来の夢や目標をもっている」について肯定的な回答をした児童85%以上 ○体験や見学、授業後のアンケートで、肯定的な回答をした児童90%以上	・地域の教育資源や人材等を活用した体験活動や授業では、児童に地域の自然、歴史、文化、公共施設のよさ等の理解を促進するとともに、活動の見通しと学びの振り返りを行う活動を仕組む。 ・ふるさと学習支援事業を活用した学習に積極的に取り組み、体験活動や見学を行う。	B	・学習状況調査におけるアンケートを実施したが、結果がまだ戻ってきておらず、状況把握ができていない。 ・ふるさと学習においては、4年・6年共に実施することができ、事業後のアンケートでは両学年ともほぼ100%の児童が肯定的な回答をしている。十分に実のある体験活動や見学ができたと言える。	A	・「将来の夢や目標をもっている」について、肯定的な回答をした児童は85.8%だった。今後は更なるキャリア教育の推進を図る必要がある。 ・ふるさと学習においては、事業後のアンケートも非常に充実し満足した内容となっており、児童が学びの振り返りをしたことで、ふるさと佐賀のよさを改めて認識することができた。来年度も継続して積極的に体験活動や見学を実施していく。	A	・最近の子ども達は、将来の夢をもっている子が多すぎたと思った。それぞれの子の将来の夢を聞いてみたい。 ・兵庫小では、地域との連携がしっかりととれていて非常に協力的に取り組んでもらっている。今後も継続的に取り組み、地域の伝統や良さを知ってもらいたい。	・管理職

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育

5 総合評価・次年度への展望	・本年度は大きく5つの評価項目で9個の取組内容を設定し、全職員で年間を通して取組を行った。PDCAサイクルのもと継続的に実践を行ってきた結果、5つの取組内容がA評価で概ね達成できた。保護者の「兵庫小学校をよりよくなるためのアンケート」からも、ほとんどの項目が90%以上の肯定的な回答が得られ、教育活動に対して高い評価を得ていると考える。また、学校評議員会において学校の現状や取組について説明したところ、すべての委員から肯定的な意見をいただき、2つの取組内容でB評価をA評価に変えていただいた。全職員が共通理解・共通実践のもと組織として取り組んできた成果だと考える。 ・来年度以降も、働き方改革の推進が求められる中、「やらなければならないこと・できること」を精査し、常に継承と改善の視点で教育活動を見直し、児童の自己肯定感の更なる向上を目指しながら実践に取り組まなければならないと考える。児童・保護者・地域・職員が一体となって、学校教育目標の実現に向け、成果の上がる取組にしていきたい。
----------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------